



今年度のアユの飼育状況について ～親魚養成から採卵まで～

福井県水産試験場

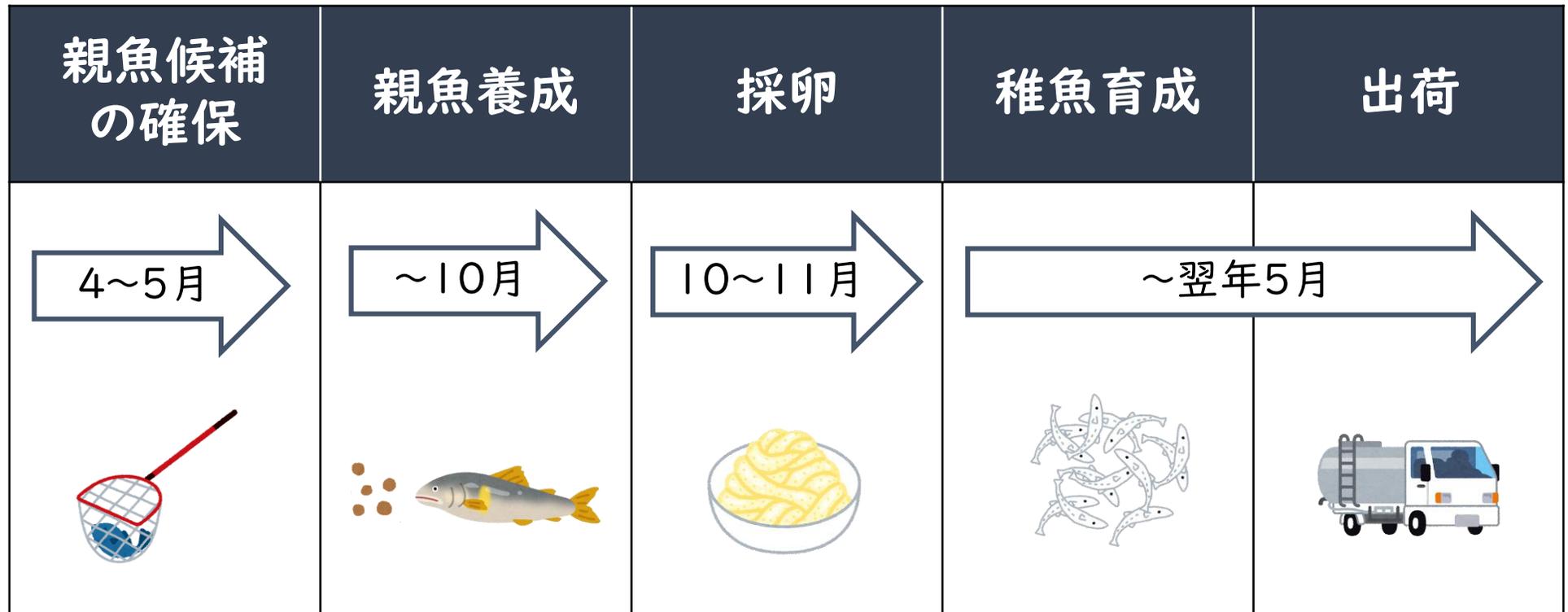
内水面総合センター

R3.12.10

種苗生産の概要

内水面総合センターでは、県内河川のアユ資源の維持と増殖を目的に、再生産に寄与する海産種苗を栽培漁業センターと共働で、年間200万尾育成・出荷しています。

アユの種苗生産は、昭和57年から行っており、親魚に育てるための稚アユの確保など、多くの漁業関係者の御協力があって実施できています。



親魚候補の確保(4月26日~6月2日)



漁業関係者に御協力をいただき、
5回にわけて遡上した天然稚アユ(1.2万尾)
を捕獲しました。

捕獲した稚アユは、バケツリレーで活魚水槽
に入れ、内水面総合センターまで運びました。



親魚養成（～10月12日）



- ①搬入した稚アユを1/2海水で、半日ほど塩水浴を行いました。
- ②数日間かけて人工飼料に慣らしながら、加温などにより、魚病発生を予防しました。
- ③養成する親候補を選抜し、養成用の100ト水槽に移しました。今年度は、天然親魚を3面（7.2千尾）、F1親魚を1面（3.3千尾）飼育しました。

親魚養成（～10月12日）



④6月1日～30日にかけて、夜間照明をつけ、成熟を促しました。（通常より、1か月早く採卵できます。）

⑤成熟の進行が確認でき次第、加温を停止し産卵誘発を行いました。

⑥水槽内に設置したシュロに着卵が確認され次第、採卵を実施しました。

採卵(9月30日~10月12日)

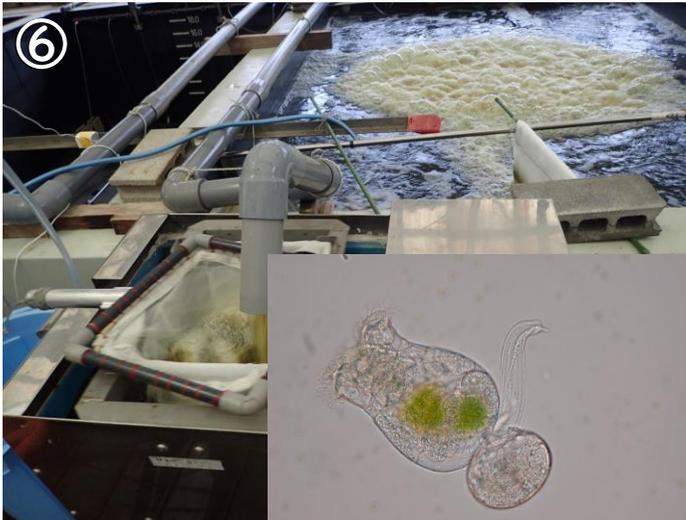


①成熟した雄から採精し、人工精漿液で希釈します。

②成熟した雌から採卵します。

③卵に①の媒精液をかけます。

採卵(9月30日~10月12日)



④ 媒精した卵をシュロに付着させます。

⑤ 着卵したシュロは100トンの水槽に吊り下げ、
孵化するまで15℃の淡水で2週間ほど管
理します。

⑥ 仔魚のエサとなるワムシを培養します。

親魚養成と採卵の結果

	天然親魚			F1親魚
	水槽①	水槽②	水槽③	水槽④
飼育尾数	2,400	2,400	2,400	3,300
全長 (mm)	176.9	190.5	183.8	204.3
体重 (g)	64.8	69.2	63.1	94.8
生殖腺指数	33.8%	23.6%	25.7%	32.3%
收容卵数	341万粒	524万粒	306万粒	321万粒
発眼率	40.3%	51.7%	78.2%	47.5%
收容先	内水面C	栽培C	栽培C	栽培C